

平成30年11月5日

各 位

(一社)日本環境測定分析協会 技能試験実行委員会

## ISO/IEC 17043 に基づく技能試験の実施について

(一社)日本環境測定分析協会では環境測定分析分野における技能試験を平成 11 年 9 月より実施しておりますが、今回は下記のとおり実施しますのでご案内申し上げます。

### 記

1. 試験番号 日環 96-18AG(日環-96)
2. 試験名 排ガス中の成分分析
3. 分析項目 硫黄酸化物、窒素酸化物
4. 分析方法 「試料採取操作手順」に従って捕集を行い、  
JIS K 0103、JIS K 0104 で分析を行う。
5. スケジュール
  - ・ 申込受付 平成30年11月 5日(月)から12月14日(金)まで
  - ・ 試料配付 平成31年 2月 4日(月)から 2月 5日(火)まで
  - ・ 結果報告期限 平成31年 2月22日(金)
    - (1) 代理入力は平成31年2月20日(水)までとします。
    - (2) 報告は1試験所1報告に限ります。
    - (3) 当協会では試料配付後 1 週間の安定性を確認します。参加される試験所におかれましても**試料配付後 1 週間以内の測定を推奨**します。
  - ・ 報告書発行予定日 平成31年5月下旬

### 6. 参加費

区 分	金額(税込)
(一社)日本環境測定分析協会法人正会員	34,000円
一 般	61,000円

上記参加費は、試料 1、試料 2 の 2 種類(2 本)を 1 組のみ含みます。

参加費の払い込みは、「払込取扱票」を試料と一緒に送付しますので、「払込取扱票」を使用し、郵便振替としてください。試料到着後、極力早めにお問い合わせいたします。

※ 平成 30 年度ご請求分より、大変恐縮ながら、払込手数料についてご負担をお願いすることになりました。何卒ご理解の程お願い申し上げます。

### 7. 実施要領、申込方法

「**技能試験実施要領**」は(一社)日本環境測定分析協会のウェブサイトの「技能試験」より入手できます(<https://www.jemca.or.jp/>)。「技能試験実施要領」をご確認の上、ウェブサイト上の「技能試験」ページよりログインし、お申込みください。

インターネットを利用できない試験所には「**技能試験実施要領**」を郵送します。下記までFAXにてご連絡ください。

### 8. お知らせ

結果報告期限後に残試料を提供する場合があります。ただし、試料配付の 1 週間後以降に安定性試験を行う予定はありません。

## 9. 連絡先

(一社)日本環境測定分析協会 技能試験実行委員会事務局  
〒134-0084 東京都江戸川区東葛西2-3-4 JEMCAビル  
TEL:03-3878-2811 FAX:03-3878-2639  
ウェブサイト : <https://www.jemca.or.jp/>

## 10. 機密保持ポリシー

- (1) 技能試験委員会委員、技能試験実行委員会委員、品質管理者、協力者及び事務局は、電子情報を含めて参加試験所から提供される全ての情報を機密情報として取り扱います。
- (2) 第三者が個別の技能試験結果の提供を求める場合には、当該参加試験所の文書による同意及び技能試験委員会の承認を得ないと提供できません。

## 11. 参加資格

本技能試験における分析項目の分析ができること。

## 12. 報告書記載内容

技能試験実施概要、技能試験試料の概要、統計解析結果、試験結果、試験所名(所在地の都道府県名と社名)

## 13. その他

- (1) 報告期限までに報告がなかった試験所には、参加証を発行いたしません。
- (2) 報告書は、計量検定所等及び一部の都道府県環境関連部署に配付しております。
- (3) 試料調製、試料配付、均質性・安定性試験、技能試験報告書の編集、技能試験の申込みシステム及び結果報告システムの保守については、当協会が評価・選定した機関に外部委託しています。
- (4) 技能試験結果について異議・苦情の申立てがある場合は、(一社)日本環境測定分析協会のウェブサイト(<https://www.jemca.or.jp/>)の「技能試験」のページに掲載の「異議・苦情申立書」を用いて、異議・苦情の申立てを行うことができます。

なお、技能試験結果に関わる相談・問合せについては、上記と同様に「技能試験」のページに掲載の「相談・問合せ申込書」にてお申込みください。

ウェブサイトを利用できない試験所には各様式を郵送しますので、FAXにてご連絡ください。

## 技能試験実施要領

1. 試験番号 日環 96-18AG(日環-96)

2. 試験名 排ガス中の成分分析

### 3. 分析項目及び濃度範囲

分析に当たっては、下記濃度を参考にして実施してください。

分析項目	濃度範囲	試料量
硫黄酸化物	50 ～ 500	試料 1、試料 2 スプレー缶 各 ガス容量約 7 L、缶容量 1 L
窒素酸化物	30 ～ 300	

4. 試料調製方法 所定量の標準ガスと所定量の希釈用ガスを混合し、設定濃度に調製してあります。

5. 配付試料 試料 1、試料 2 の2種類です(試料瓶貼付のラベルにより識別できます)。

6. 試料の保管 試料到着後速やかに分析することとし、保管する場合は分析方法に記載されている方法により適切に保管してください。

7. 分析方法 「試料採取操作手順」に従って捕集を行い、JIS K 0103、JIS K 0104 に従い分析を行ってください。

※1 他の分析方法での報告は、欠測値とすることがあります。

※2 技能試験試料は日常の試験を実施する場合と同様に取り扱ってください。

8. 数値の取扱い JIS Z 8401(数値の丸め方)規則Bに従い表示してください。

9. 分析値の報告 報告単位は下記のとおりとします。

硫黄酸化物 :  $\text{mg/m}^3$

(試料ガス中の硫黄酸化物を二酸化硫黄としてあらわしたときの質量濃度)

窒素酸化物 :  $\text{mg/m}^3$

(試料ガス中の窒素酸化物を二酸化窒素としてあらわしたときの質量濃度)

報告桁数は 硫黄酸化物、窒素酸化物ともに 小数点以下 2 桁 とします。各項目の測定日についても報告してください。

必ず試料 1、試料 2 を報告してください。試料 1、試料 2 の報告がないと無効となります。

10. 統計処理法 median を付与値とし、四分位法を用いて zスコアを算出します。

### 11. その他

(1) 測定回数、試料採取量、前処理方法等で本実施要領に記載してない事項は、各試験所の判断で実施してください。

(2) 参加試験所同士の談合又は測定結果の改ざんは厳しく禁止します。

(3) (一社)日本環境測定分析協会法人正会員の方は「事前に取得されたID、PW」で、また一般の方でこれまでに「ID、PWを取得済み」の方は、インターネットから「申込、報告」ができます。

一般の方で「ID、PWを取得されていない試験所」の方は、(一社)日本環境測定分析協会のウェブサイト(<https://www.jemca.or.jp/>)の中の「一般参加アカウント」ページの「一般参加アカウント登録」ボタンからID、PWを取得してください。

12. 報告期限 平成31年2月22日(金)まで(厳守してください)

但し、代理入力 は平成31年2月20日(水)まで(必着とします)

報告はできる限り、インターネットでお願いします。インターネットで入力された結果がそのまま集計されますので、入力ミスが無いよう注意してください。申込期限、報告期限までは、入力値の修正が可能です。期限後は入力できません(入力方法の詳細は(一社)日本環境測定分析協会の ウェブサイト/技能試験/技能試験の流れ/結果報告の流れ を参照してください)。

インターネットが使用できない場合は、「代理入力依頼用紙」を用い、FAX 又は郵送でお送りください。(一社)日本環境測定分析協会が代理入力します。

**報告期限を必ず遵守してください。報告期限を過ぎて報告されたものは無効とします。**

識別コード番号一覧表

方法識別コード（１） 前処理方法コード

識別コード	前処理方法
P51	真空フラスコ法
P52	注射筒法
P53	吸収瓶法
P54	捕集管法
P55	捕集バック法
P99	その他（備考欄に簡潔に記入してください）

※ 真空フラスコ法で実施した試験所の中で、試料採取操作手順 3.2 の \* の方法（先に酸素 150 mL 又はオゾンを含む酸素 100 mL を真空フラスコに注入）を採用した場合は、**P51（真空フラスコ法）**を入力し備考欄に「事前注入」とご記入ください。

方法識別コード（２） 測定方法コード

識別コード	測定方法
M51	Zn-NEDA 吸光光度法
M52	NEDA 吸光光度法
M53	PDS 吸光光度法
M55	沈殿滴定法
M56	中和滴定法
M57	比濁法
M58	化学発光法
M59	イオンクロマトグラフ法
M99	その他（備考欄に簡潔に記入してください）

インターネットで入力できない試験所は FAX で「代理入力依頼」を送信してください。

(一社)日本環境測定分析協会 技能試験事務局 宛 (FAX : 03-3878-2639)

### 技能試験参加申込書「代理入力依頼」

試験番号	日環 96-18AG (日環-96)
試験名	排ガス中の成分分析
事業所認識番号	(事務局記入欄)

#### 試験所情報

ログイン ID (メールアドレス)		※ID が不明の場合は事務局までお問い合わせください。 ※ID 未取得の試験所には、新規に ID を発行し、後日通知します。
社 名		
事業所名 (支社名)		
社名・事業所名カナ		
区 分		日環協法人正会員 ・ 一般 ※どちらかに○をつけてください。
技能試験 実施責任者	氏名	
	所属	
連絡先	TEL	
	FAX	
	E-mail	
住所	郵便番号	〒
	都道府県	
	住所	
試料送り先	※試料の送り先が住所と異なる場合は記入してください。	
	郵便番号	〒
	都道府県	
	住所	
	宛名	

#### 申込内容

試料申込数	(組)
-------	-----

報告期限：平成 31 年 2 月 20 日（水）※インターネットは 2 月 22 日（金）

■申込をインターネットから行った試験所は、報告もインターネットでお願いします。

日環協ウェブサイト「技能試験」から入力してください。

■インターネットが使用できない場合

以下の書式に記入し、FAX で送信してください。（一社）日本環境測定分析協会が代理入力致します。

（一社）日本環境測定分析協会 技能試験事務局 宛（FAX：03-3878-2639）

### 技能試験結果報告書「代理入力依頼」

試験番号	日環 96-18AG（日環-96）
試験名	排ガス中の成分分析
事業所認識番号	（事務局記入欄）

ログイン ID （メールアドレス）	※「ID」が不明の場合は、事務局までお問い合わせください。	
社 名		
事業所名（支社名）		
社名・事業所名カナ		
区 分	日環協法人正会員 ・ 一般 ※どちらかに○をつけてください。	
技能試験 実施責任者	氏名	
	所属	
連絡先	TEL	
	FAX	
	E-mail	
住所	郵便番号	〒
	都道府県	
	住所	

結果報告 ※「番号」には識別コード番号一覧表による識別コード番号を記載してください。

項目	前処理方法		測定方法		単位：mg/m <sup>3</sup>		測定日※
	番号	備考	番号	備考	試料 1	試料 2	
硫黄酸化物							
窒素酸化物							

※ 測定日は下記のとおり記載してください。

例：2019年2月5日

## 試料採取操作手順

本技能試験では、スプレー缶に充てんしたガスが試料となります。このため、スプレー缶から試料ガスを採取して分析する必要があります。スプレー缶からの採取方法が分析結果に大きく影響することが懸念されるため、以下に示すような手順で試料ガスの採取を行ってください。

スプレー缶は、分析に必要な本数<sup>\*</sup>を準備してください。

※スプレー缶 1 本のガス容量は、約 7 L です。

### 1. 準備

- ・ 採取袋 (サンプリングバッグを使用 容量 3~5 L 程度)
- ・ 接続用のシリコンゴム管 (スプレー缶付属の管と採取袋の入口を接続)

採取袋は以下の手順で洗浄してください。

- ① 採取袋に純窒素を (多少膨らむ程度) 導入し、ポンプを用いて脱気してください。
- ② この操作を 2 回繰り返してください。

### 2. 試料ガスの移しかえ

スプレー缶に入っている試料ガスを上記の洗浄済みの採取袋に、以下の手順で移しかえてください。

- ① スプレー缶に採取袋を接続し、試料ガスを少量 (0.5 L 程度) 導入し栓をしてください。
- ② 採取袋に試料ガスが全体に行き渡った状態になったら、ポンプを用いて脱気し、栓をしてください。試料ガスには窒素酸化物が含まれているため、ポンプの前にモレキュラーシーブ等をつけて、窒素酸化物のポンプへの影響を防いでください。
- ③ 再びスプレー缶に接続し、試料ガスを (残りの全量) 導入し入口に栓をしてください。

### 3. 試料の採取

#### 3. 1 吸収瓶に採取する場合

図 1 のように採取袋に吸収瓶 2 本を接続し、ポンプで吸引してください。吸引速度は 0.5 L/min 程度で行ってください。吸収液量、試料採取量は 4. を参照してください。

試料ガスには窒素酸化物が含まれているため、ポンプの前にモレキュラーシーブ等をつけて、窒素酸化物のポンプへの影響を防いでください。

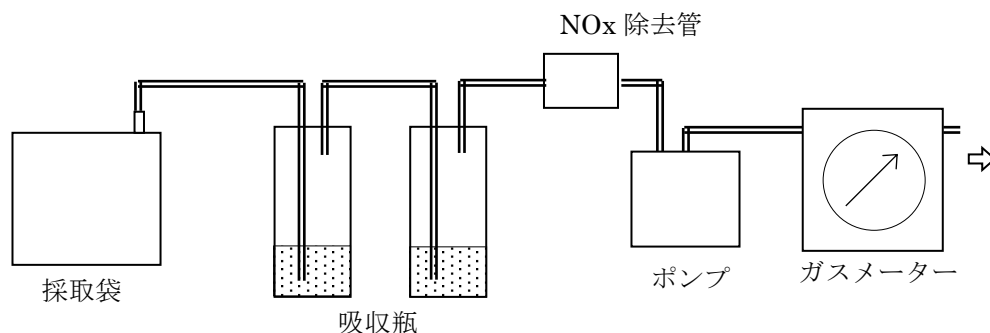


図 1 試料採取接続図

### 3. 2 真空フラスコ又は注射筒に採取する場合

真空フラスコ又は注射筒を採取袋に接続して、JIS K 0104 6.1 真空フラスコ法 又は 6.2 注射筒法 と同様に操作してください。

試料ガスは窒素ベースなので、一酸化窒素の酸化を促進させるため、酸素 150 mL を試料ガス採取用容器に導入（\*）し、**2 時間以上**放置後、分析してください。（オゾンを含む酸素 100 mL でも可）→方法は、JIS K 0104 6.1.4 又は 6.2.4 を参照してください。

\* 真空フラスコに採取する場合、先に酸素 150 mL 又はオゾンを含む酸素 100 mL を添加用注射筒にとり、これを真空フラスコに注入したのちに、試料ガスを採取することも可とします。（添加した酸素等の量は、試料採取量から差引くこと。）

### 4. 試料採取量

本技能試験における試料ガス容量は約 7 L ですので、表 1 及び表 2 に示す試料採取量と定量範囲を参考に、試料採取量を決定してください。

表 1 硫黄酸化物測定における試料採取量と定量範囲（参考）  
(JIS K 0103 から算出)

分析方法	吸収液量(mL)	試料採取量 (L)	定量範囲 (mg/m <sup>3</sup> )
沈殿滴定法	50	6	270～1300
イオンクロマトグラフ法	100	1	28～3200
中和滴定法(附属書)	100	6	270～10000
比濁法(附属書)	250	6	50～2800

注) ①試料溶液 50 mL の場合 : 吸収液 20 mL×2 本 → 50 mL に定容  
 ②試料溶液 100 mL の場合 : 吸収液 25 mL×2 本 → 100 mL に定容  
 ③試料溶液 250 mL の場合 : 吸収液 50 mL×2 本 → 250 mL に定容

表 2 窒素酸化物測定における試料採取量と定量範囲（参考）  
(JIS K 0104 から算出)

分析方法	試料採取法	試料採取量 (L)	定量範囲 (mg/m <sup>3</sup> )
Zn-NEDA 吸光光度法	真空フラスコ法	1	2～100
	注射筒法	0.2	10～510
NEDA 吸光光度法	真空フラスコ法	0.5	5～1000
	注射筒法	0.2	13～2500
イオンクロマトグラフ法	真空フラスコ法	1	8～2800
	注射筒法	0.2	39～14000
PDS 吸光光度法	真空フラスコ法	1	20～620
	注射筒法	0.2	24～8400

### 5. その他

- 本試料は、試料調製時の標準ガスの希釈に高純度窒素を使用しています。試料ガスは窒素ベースですので、ご注意ください。
- 当協会では試料配付後 1 週間の安定性を確認します。参加される試験所におかれましても**試料配付後 1 週間以内の測定を推奨**します。